

題 出身議員の先生との対話から学んだ事、考えた事  
氏名 渡邊 吉実

愛知政治大学院出身の議員の先生方から、政治家を志した理由や選挙運動、日常の政治活動から取り組んでいる政策課題まで、腹を割った忌憚りの無い話を聞いた。

親の後を継いで議員になられた先生、政治家の秘書から志した先生、自分の住む町を良くしようと立候補した先生、もう辞めたいと思っている先生と、先生方の本根が聞けてとっても良かった。選挙運動も大変だけど、その後の政治活動も行政と市町職員との狭間でなかなか思うように行政を変える事は難しいようだった。

以前、コンセンサスによる集団決定の難しさを習ったが、経験も動機も異なる政治家が集まる議会では、その政策の意思決定をするのは容易な事ではないようだ。利権をむしり取られる官僚や政治家の抵抗、財界や圧力団体の力も働く。だからこそ選挙に勝つためには、個々の政策よりも強力なリーダーシップが必要とされ、強引に引っ張って行く人に頼りたくなる。その時、人の頭はどうやら部分的に思考停止に落ち入るようだ。自分の思いや政策とは違うが、とりあえず彼をリーダーにして政権を奪取できると思い込んでしまう。

テレビ討論では相手の失策や言葉尻を捉えては討論に勝った気で居る。言葉尻をつかまれても、自分の本質論が否定されたとは思わないので、議論に負けたとも思えず延々とその話が続く。テレビを見ている側からすれば、いつまで馬鹿な議論を繰り返えさず本質論に移れと思う。その最たるものがテロ特措法であり、今回の揮発油税の暫定税率であろう。

暫定税率が続けば、道路特定財源も維持でき、地方が欲しかった道路や今迄予算が無くて出来なかった政策も行なえ、地方格差も解消できる。一般財源化できれば消費税も上げなくて済む。そうははっきり言えないのは、どこか心にやましい所があるのだろうか？

ましてや、マッサージ機や不要な宿舎に使った事を言い訳するようでは自民党の信用を落とすばかりだ。それなら、1度は民主党に政権を明け渡して、清潔な政治を行ってもらいたいと国民は思ってしまふ。しかし小沢党首にだけは任せたく無いというのが多くの国民の意見でもある。

車を使わない東京の評論家にはわからないだろうが、環境破壊対策にも資金が必要だし、高齢化が進み歩けなくなった老人や障害者には、車椅子用トイレや駐車場、地域情報コーナーのある道の駅のような施設だって必要だ。そういう施設がどれだけ人々を家から外へ出ようと思わせ、社会参加を促し、経済効果や健康効果を出しているか計り知れない。それも車を使う人のガソリンから徴収した税であるから、そこへ還元されるのは当然である。

民主党が割れている今こそ、自民党は各議員がぶれる事無く一枚岩になって、日本全国民の為の本質論を展開して、この問題に取り組んで欲しいと思う。